

教師の児童に対する関わりが学級満足度に及ぼす影響について

山原 雅人 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 南島 永衣子

キーワード：学級満足度，承認得点，被侵害得点

1. 緒言

平成17年10月の中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」では、教師の質の向上が重要と指摘されている（文部科学省、2005）。近年では、仲間作りに悩みを抱いたり、学校で起きた不安を家族に打ち明けられず、いじめや不登校へと発展するケースが社会的問題となっている。1人で悩みを抱え苦しんでいる児童を早期に発見し、深刻になる前に対応していく事が今後ますます重要となってくる。

さて、教師が学級の状態を正確に把握するために Questionnaire-Utilities（以下、Q-U）がある（河村、2006）。これは、いじめや不登校、学級崩壊を未然に防ぐために開発されたものであり、児童一人一人の心理状態や学級の状態を把握することができる指標の1つである。教師は、このQ-Uの結果を基に、児童や学級の状態をより良い方向へ対処していく。

そこで本研究では、Q-Uを使用し、教師の肯定的な声かけや指導が児童の学級満足度に及ぼす影響について検討することを目的とした。

2. 研究方法

京都府S小学校6年生55名（男子26名，女子29名）を対象とし、Q-Uを7月と12月の計2回実施した。なお、1回目のQ-Uの結果から1クラスが学級満足型と判断で

きたため対象から外した。対象としたクラス内において、学級不満足群に属した4名に対して肯定的な声かけや指導を行った。

3. 結果

本研究は、Q-Uを用いて学級不満足群となった児童を対象に、教師の肯定的な声かけや指導が学級満足群へ及ぼす影響について明らかにすることを試みた。その結果、学級不満足群に属した児童の平均得点は、前回よりも承認得点は5.3点改善され、被侵害得点は5.7点の改善が見られた。また、学級全体の平均得点の変化においても、大幅な改善がみられた。

4. まとめ

学級不満足群に属した児童に対して、教師の肯定的な声かけや指導は効果があると言える。しかしながら、今回は教師の言葉かけの具体的な内容やその頻度の調査を行うには至らなかった。また、実施期間が短かったこともあり、学級満足群となった児童は1名にとどまった。

そこで今後の課題としては、教師の肯定的な声かけや指導の頻度・内容を細かく分析するとともに、1年を通して児童や学級の調査をしていくことが挙げられる。

引用・参考文献

河村茂雄（2006）学級づくりのためのQ-U入門．図書文化社：東京．